

インタビュー：五百旗頭真さん（前防衛大学校長）

朝日新聞 12(H24)年 11 月 27 日

（太字部分は、引用者が強調のためにそうしました）

——歴史を振り返って、今回の選挙をどう位置づけますか。

「満州事変を関東軍が起こしたとき、国民世論はドッと支持しました。社会が行き詰まり、もう耐えられないとなったとき、新しいものなら何にでも飛びついてしまう傾向が日本にはある。**ギリ貧を逃れてドカ貧に跳躍する病気**です。いま国民は既存政党にうんざりしている。でも、新鮮だというだけで飛びつくのは危ない。**威勢のいい無責任な言葉が結局、国益をどれほど傷つけたか。**尖閣問題がいい例です」「ただ、政党政治そのものを捨てた当時の国民と今は違います。世論受けではなく、国民益の実現を考える政治家を選び、その政治家が政党を立て直すことに期待したいものです」（聞き手・萩一晶）

<引用者注 ギリ貧：ギリギリと貧しくなること ドカ貧：急にひどい貧乏になること>